

**(第137回) 麻雀大会 — 羽矢 惇氏 (初優勝) —**

平成から令和に年号が変わって初めての麻雀大会が7月11日、いつもの会場「利一」にて行われました。西日本地区は豪雨が続いていましたが、幸い東京地区は梅雨時の晴れ間でした。

当日朝の嬉しいニュースは‘はやぶさ2’が地球から2億4千万キロ離れた小惑星「りゅうぐう」へ2度目の着陸に成功し地中の岩石などの回収に成功。世界初の快挙の日でした。

さて、今回の大会は20名<事務局長服部さんも参加>で5卓での戦いでした。いつもの楽しい雰囲気の中、好きな飲み物を飲みながら、お互いに相手の手の内を探り合い、真剣な勝負が繰り返されました。

令和元年初の栄えある優勝者は羽矢惇氏で初めての由ですが、過去に2位3回、3位1回と強豪です。2位は近藤裕行氏、3位は浮田幹弘氏、BB賞は渡辺徹氏でした。今回初参加者が二人おられてご挨拶を頂きました。西浦重夫氏<元JFEスチール>と吉岡康平氏<元JFE商事>です。いつもの事ですが、事務局の松浦さんには、受付や写真、気の利いたお土産の手配など大変お世話になっております。

戦い済んで日が暮れて、現実の世界に目を向けると、11日のNY株がパウエルFRB議長の議会証言によって、利下げへの期待から初の2万7000ドル台の最高値を更新した日でもありました。はやぶさ2の着陸シーンのTVを楽しみに帰途に…。(幹事 大西 建男・記)

**酒絶ち初優勝記**

7月11日第137回麻雀大会で幸運にも初優勝することができました。一緒に卓を囲んだ皆様とも楽しくプレイでき感謝申し上げます。



1回戦こそ少しマイナスの3位スタートでしたが、2回戦で一索単騎待ちの純チャン三色一盃口を上げてからは、13日のオールスター戦でサイクルヒットを達成した近本状態でした。配牌良し、ツモ良し、リーチに対し坊主めぐりでも鉄兜状態であたらず、以降最終戦までトップをとることができました。

第121回に初参加した際、3回戦までのトップを決勝戦で某先輩に大逆転された記憶がよみがえったので決勝戦では金持ち気分徹して逃げ切ることができました。

私は日頃、麻雀をしながらお酒を飲むのですが、この日は翌日に健康診断を控えていたのでアルコールは一切口にせず、ウーロン茶で通しました。これが本当の勝因かもしれません。

そこで、麻雀狂歌を一首。「竹林に酒筒忘れ風待てば色も数字も随意万来」これからも大いに麻雀を楽しみたいと思います。(羽矢 惇・記)

